

(仮称)狭山元気大学開設プラン市民検討委員会の皆さんと語る

人づくり・人を活かす仕組みづくり (仮称)狭山元気大学の開設に向けて

全市的な視点で育て上げる

狭山元気大学は市民が主体でつくる

市長 皆さん、明けましておめでとございます。

近年は、社会情勢の変化に伴い、地域の担い手や活動拠点の不足など、地域の活力が低下している状況にあります。私は、これらの課題を解消し、元気な狭山をみんなで

つくるためには、まず人づくり、そして地域で人を活かす仕組みづくりが必要と考えていました。

そこで、学校の統廃合を進める中で、狭山台北小学校の校舎を利用した、大人の学舎(仮称)狭山元気大学を開校したいと考えています。



狭山元気大学は小さく生んで

大きく育てたいと語る仲川市長

本日は、大変お忙しい中、現在大学の土台ともいえる開設プラン策定のため、大学の運営方法や内容などについて熱心に検討をいただいている委員会から4名の皆さんにお越しいただきました。これまでの検討状況や元気大学開設による狭山市の将来像などについて、皆さんとお話ができることを楽しみにしています。

山本 市民の関心の高い施策・狭

山本和人氏(委員長)



東京家政大学文学部教授
(専門/社会教育)

山元気大学の開設に携われて嬉しく思っています。

まず、この大学が、全市的規模であることに意義があると思えます。そして、市民がつくり、市民がみんなで育てていく、そういう大学になってもらいたいと思います。

従来の生涯学習では、学びの成果を地域に活かす場合、無償ボランティア活動につなげていく傾向が大きいのですが、最近では、NPOなどが定着し、それなりのサービスが提供され、信頼度も増してきています。元気大学では、地域を

元気にするためにも、地域支援の有償ボランティアの育成に取り組んでいきたいと考えています。

今は、プラン策定の段階なので、しっかりと将来を見据え、その仕組みづくりを考えていかなければいけないと思っています。

嵯峨座 元気な狭山をつくるには、地域ごとに行うのでは限界があります。全市的な規模で、老若男女、誰でも参加できる元気大学は、よい構想だと思います。

テーマとしては、優先度が高い子育て支援や高齢者の能力開発・介護の問題など、市民主体の企画・運営で、市民が直接係わるようにすることが必要です。

また、今は、世界経済が地域社会に直接的に波及してくる時代です。将来的には、国際的なことも視野に入れた方がよいと私は考えます。



本委員会は、広く専門家や市民の意見を反映し、市民ニーズに沿った開設プランづくりを行うため、平成20年7月2日に設置されました。委員は、教育関係者や知識経験者、さらに市民活動団体や産業分野などの公的機関から推薦された方の計15名とオブザーバーの教育長で組織しています。



猪股 柏原地区まちづくり協議会で活動していますが、元気大学は、いろいろなことができそうで、面白い企画だと感じました。

当初は、大学のイメージに難しい部分もありましたが、検討委員会で議論が進む中、イメージが見えてきました。市民の側からつくり上げる大学です。そして、大学で学んだことを地域にフィードバック

2月には市民検討の結果を提言

学舎の対象は高校生以上の全市民

市長 これまでの検討委員会での検討内容などをお聞かせ願えますか。

山本 これまで昨年の7月2日に第1回目の検討会議を開催し、12月24日まで9回の会議を重ねてきました。いろいろな意見が出ましたが、ここにきてまとまってきましたので、2月には提案書として提言できる予定です。

元気大学の基本的な考えは、人づくりと人を活かす仕組みづくりです。学んだことを、地域の課題を解決する活動などにつなげるシステムを作るには、市民の協力が不可欠です。そのためには、まず、市民に十分理解してもらうことが大切だと考えます。

クシ、さらに地域で培ったことを大学に戻していけたらと思います。

平郡 私は、子育てサークルの活動をしています。子育て中のお母さんたちが、子どもを預けながら、幅広く学べ、気軽に参加できる学校にしたいと思っています。そして、子どもが就学したあと、社会に出ていける、そんな仕組みができたらとてもいいですね。

また、単に需要があるだけで、講座を開設するのではなく、活動の場を考える必要があります。

学科編成や講座の体系、関係機関とのネットワーキングづくりなど、今後、さらに細かいところを検討し、より実効性の高い提案をしていきたいと考えています。

市長 ありがとうございます。提案書を見せていただくのが、今から楽しみです。元気大学では、学びと修了生の地域活動の場とをつなげ、市民自らが、地域の元気を生み出す場所だと思つのですが。

嵯峨座 元気を生み出すことは、人々に生きがいを与え、特に高齢者には介護予防にもつながっていくと思えます。そのように元気大

学には、多面的な要素があります。また、検討委員会では、組織についても多くの議論を重ねました。組織の中に研究機能を持たせることも必要だと考えています。

平郡 友だちに元気大学の話をすると、「シニアの人たちが対象の大学でしょ」と言われます。元気大学は、市の新しい試みで、検討中だけと高校生以上を対象で、地域の生きがいや仕事を創り出すことにもつながる大学よ」と説明すると納得してくれます。また、大学の知名度と内容が不透明ですので、もっとPRの必要性を感じますね。

市長 市民がつくりあげる大学にするには、どのような講座が必要になるのでしょうか。

猪股 検討委員会では、お祭りボランティアの養成や子育て支援者養成、趣味の野菜づくりなど、分野ごとに20以上の講座を提案する予定です。また、授業の内容や開催の曜日、時間帯などを含め検討していきます。

山本 運営は、大学や企業、活動団体などからの支援が必要ですし、最初は行政の支援も必要だと思います。しかし、将来的には、市民が担う自立する組織を考えています。そのため、官から民への移行がスムーズにできるよう、初めから考えていかなければいけません。